

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 年 月 日

事業所名：放課後等デイサービスかみふうせんディオ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	ガイドライン基準に比べ、広いスペースを確保している。 施設設備、活動スペースは随時見学できるようにSNSなどで周知を行っている。	「はい」81.25%	契約の際に施設説明を行い、これからも児童生徒が安心安全に活動できるスペースを確保維持できるように取り組んで参ります。
	2 職員の適切な配置	基準を上回る配置を行い、心理指導担当職員や言語聴覚士の専門職なども配置している。	「はい」68.25% 「どちらともいえない」6.25% 「わからない」25%	常に職員のスキルアップや成長できる感情づくりに努めます。専門性についても今後バリエーション豊富な職員配置できるように努めて参ります。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	入り口には5cmの段差が2段あり、バリアフリー化できていないが、職員の声掛けにより、段差に対する注意喚起を行っている。	「はい」75% 「わからない」25%	入口に段差が2段ありバリアフリー解消が困難な状況ですが、室内の段差については解消しています。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	アルコール消毒や次亜塩素酸ナトリウムでの消毒を実施している。児童生徒への手洗いの徹底とどうをおこなっており、手洗い場にはペーパータオル、アルコールを設置し、衛生面の対策を徹底している。	「はい」93.75% 「わからない」6.25%	今後も手指衛生などの衛生面、感染症対策の取り組みを継続し、安心安全な活動が行えるよう取り組んで参ります。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎日ミーティングを行い、問題点や改善点を抽出共有し、日々業務改善に努めている。		今後もミーティングを継続して行い、PDCAサイクルをもとに、よりよい療育につながる要努めて参ります。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現状外部より社外アドバイザーからの指導を受けて業務改善の実施を行っている。		さらなる業務改善を目指すために今後は第三者機関による評価を検討して参ります。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	県や市への研修、学会や社外研修への積極参加し、参加後は事業所内での勉強会を実施している。また社内で専門職企画の社内研修も定期的に行っている。		今後も職員スキルアップにつながる研修を実施して参ります。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	利用開始前に保護者と面接を行い、お子様の様子や発達の状態、ニーズなどヒアリングを行い、それをもとにアセスメントを行い、個別支援計画の作成を行っています。指導員や専門職の意見も含め作成を行っている。	1.「はい」81.25% 「どちらともいえない」6.25% 「わからない」12.25%	児童生徒や保護者のニーズに沿い、利用者に寄り添った計画の作成をして参ります。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	適宜見直し、情報共有して取り組んでいる。日々のミーティングに合わせて定期的に職員全員でケース会議などでも情報のアップデートを行い共有している。	2.「はい」87.5% 「わからない」12.5%	今後も継続して作成した計画書に基づき、よりよい支援を行って参ります。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	アセスメントをもとに、できる限り具体的に支援目標を立案している。	3.「はい」93.75% 「わからない」6.25%	今後も継続してアセスメントに基づき必要な項目設定を行い、具体的な支援内容を記載し、よりわかりやすくお伝えできるように努めて参ります。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	保護者にご了承頂いた個別支援計画を全職員で周知伝達し、連携を取りながら日療育を行っている。	「はい」81.25% 「わからない」18.75%	今後も継続して適切な支援の実施を行うよう努めて参ります。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	管理者のもと、指導員や専門職と意見を出し合い、季節に合わせた行事やカリキュラムを考案・選定を行っている。		全職員がプログラム構成に参加し、スタッフの連携を取って向上に努めて参ります。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇中はご利用に合わせて可能な限りニーズにあわせて支援内容を検討し実施している。	7.「はい」81.25% 「わからない」18.75%	今後も放課後の活動や長期休暇中のご利用ニーズに合わせて対応して参ります。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	体幹トレーニングやサーキットトレーニングを行うプログラム、季節行事感を感じながらその行事にまつわる工作を行う製作プログラム、集団でソーシャルスキルトレーニングを行うプログラムなど、成長につながるプログラムを毎日日替わりで構成している。		今後も日替わりで活動プログラムが固定しない構成を継続して参ります。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	療育開始前にミーティングを行い、当日のプログラムや来所予定者、送迎の確認を行い、ミーティングの様子を映像としてPCに保存している。ミーティングに参加していない職員は映像記録を確認し、議事録や連絡ノートで確認を補う仕組みを構築し、連絡事項周知を徹底している。		今後も支援内容や対応職員の役割が日々のミーティングで見直しを行いながら確認の徹底を行って参ります。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	日中の様子を個別で記録し、記録内容は全員確認ができるようタブレットやPCで職員がいつでも確認できるようにしている。		今後も記録内容を全員確認できる環境を維持し、情報共有した内容をもとに日々の療育に活かして参ります。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	お子様一人一人の日の様子や個別で記録し、継続した個別支援を行えるようにしている。できるだけ多くの目線でお子様の成長を記録できるよう、日々の連絡記録は複数の職員で記録している。		今後も日々のミーティングで情報共有し、療育に活かして参ります。
関係機関との連携	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	最長6ヶ月毎に個別支援計画の見直しをしている。保護者との面談前にスタッフ間モニタリングを実施し、問題点などの抽出を行っている。また送迎時でも保護者と情報収集及び交換を行っている。		保護者のみでなく、学校や相談支援事業所とも密に連携し、情報収集やモニタリングに活用し、日々の療育に活かして参ります。
	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	児童発達支援職員以外の方ではなく、主職員の必要に応じて担当者会議に出席し、情報交換収集し、会議参加後は当日もしくは翌日のミーティングで情報共有を行っている。		今後も職員間で連携しながら、情報の共有に努めて参ります。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在対象となるお子様のご利用はなし		対象となるお子様が利用となった場合は積極的に連携を図りたいと考えています。
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在対象となるお子様のご利用はなし		対象となるお子様が利用となった場合は積極的に連携を図りたいと考えています。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	本年度は児童発達支援事業所からの移行はなかったが、移行利用がある場合は情報共有を行う。		送迎時に学校と密に情報共有し、必要な際には担当者会議を行う環境を構築して参ります。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	本年度は他の放課後等デイサービスからの移行はなかったが、移行利用がある場合は情報共有を行う。		移行先への事業所への引き継ぎなどの際、保護者からの要望があれば対応致します。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	保護者了承のもと、専門機関との連携を行っている。専門機関での研修は、案内頂けた研修に対しては可能な限り参加する。		必要な研修には積極的に参加し、新たな知識や情報を事業所内で共有し、療育支援に活かして参ります。
7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現時点で左記に示す交流活動は行っていない。	「はい」12.50% 「どちらともいえない」18.75% 「いいえ」25% 「わからない」43.75%	感染症拡大を懸念し、現在は検討しておりません。状況を判断し、必要な際は検討して参ります。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現時点で左記に示す交流活動は行っていない。		感染症拡大を懸念し、現在は検討しておりません。状況を判断し、必要際は検討して参ります。
	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	ご利用前に見学や体験をして頂き、その際に活動内容などの説明を行っている。利用を希望された場合はサポートブックを配布し情報提供頂いた内容とニーズなどをヒアリング後に個別支援計画書を作成し、契約後に説明を行っている。また、契約の際に重要事項説明書をお見せしながら利用負担についての説明を実施している。 ご利用後に負担内容の変更などの重要事項に変更があった場合は、都度個別で説明し、その上で同意頂いている。	「はい」87.5% 「わからない」12.5%	今後も安心してご利用頂くため、説明が不十分とならないよう丁寧な説明を心がけて参ります。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	最長でも6ヶ月毎に個別支援計画の見直しを行っている。来所頂き、保護者と振り返りや見直しを行う面談を行い、療育内容の評価や新しいニーズをヒアリング後、新しい個別支援計画を作成し、面談で個別支援計画の説明と承諾を頂いている。	「はい」93.75% 「いいえ」6.25%	計画支援内容が保護者や利用者様によりわかりやすくイメージしやすい説明を心がけ、説明が不十分とならないよう今まで以上に丁寧な説明を心がけて参ります。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングを行うに当たり職員に技術や知識が必要となるため、現段階で実施していないが、送迎や面談の際に、できる限り子育てでの相談を受け付けている。	「はい」31.25% 「いいえ」37.5% 「わからない」31.25%	今後もご家族のよりよい関係作りのサポートが行えるよう、今後スタッフのスキルアップを図り、支援の拡充が行えるよう努めて参ります。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎の際に日中のお子様の様子などを送迎スタッフよりお伝えしている。半期に一度の定期的な面談と必要に応じて、家庭訪問や来所面談を行い、そこで課題についてお伝えしている。療育中気になる点やご家庭にお伝えしていきたいことがあるときや、保護者からの要望があれば管理者から個別で電話にて面談している。	「はい」93.75% 「どちらともいえない」6.25%	管理者からのお電話や自宅訪問の実施を増やし、情報収集を療育支援に活かして参ります。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	半年に一度の定期的な面談や適宜必要に応じ家庭訪問を行った際にゆとりお話しする機会を作って対応している。できるだけ多くお話しし、子育てでの悩みなどに寄り添うよう努めている。	「はい」68.75% 「どちらともいえない」12.5% 「いいえ」12.5% 「わからない」6.25%	管理者からのお電話の回数を増やし、そこからゆとりお話しできる面談へとつなげ、ご相談に多く対応できるよう努めて参ります。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現時点で保護者会などの発足はしていない。	「はい」6.25% 「どちらともいえない」6.25% 「いいえ」56.25% 「わからない」25%	現状父母の会や保護者会の開催については予定しておりません。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	事業所内で対応を共有及び確認を行い、苦情頂いた当日にできるだけ迅速に対応している。	「はい」68.75% 「どちらともいえない」6.25% 「わからない」25%	ご家族のニーズ、願いにはできる限りの誠実な対応に努めて参ります。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	障害の特性に合わせ伝達方法を配慮し、ノンバーバルなコミュニケーションやタブレットを使用したAACを活用するなど配慮に努めている。	「はい」93.75% 「わからない」6.25%	今後も障害の特性に合わせた伝達方法の配慮については言語聴覚士を中心として、社内研修の実施によりスキルアップを図って参ります。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	SNSでのブログや月に一度かみふうせんデジオだよりの配布、日々の連絡帳での写真添付などにより日中の様子などを配信している。	「はい」93.75% 「わからない」6.25%	今後も継続してSNSでのブログやかみふうせんデジオだよりを活用し、今後も様々な情報発信に努めます。
非常時等の対応	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	職員一同、個人情報保護法を遵守している。契約の際に個人情報については書面及び口頭でお伝えし、承諾頂いている。個人情報については鍵付き書庫で保管している。ブログでの写真掲載は個人が断定できないよう画像処理を行っている。日々の連絡帳での写真は当該利用者以外のお子様以外の顔は個人が特定できないよう画像処理を行っている。	「はい」93.75% 「わからない」6.25%	今後も個人情報保護法を遵守し、職員一同細心の注意を払って対応して参ります。
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアル策定し、職員に周知徹底している。また職員がいつでも閲覧できるよう保管している。保護者への周知は契約の際に重要事項説明書と合わせて説明を行っている。	「はい」68.75% 「どちらともいえない」12.5% 「わからない」18.75%	今後はより具体的な緊急時対応マニュアルを作成し、周知に努めて参ります。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	今年度は火災避難訓練を実施。地震避難訓練等も実施予定としている。	「はい」75% 「どちらともいえない」6.25% 「わからない」18.75%	今後も非常災害の発生の備えには万全の体制づくりのため、定期的に避難訓練を継続して行って参ります。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	今年度は虐待防止研修を社内にて1回実施。管理者は別途姫路市で開催された虐待防止研修を受講し、参加後社内にて情報共有を実施した。		今後も外部研修の受講、社内研修を実施し虐待のない施設運営を行う参ります。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	やむを得ず身体拘束を行う場合の対応を職員間で周知している。契約時に保護者への説明も行っている。		やむを得ず身体拘束を行うに至る際は、予め計画書に記載し、職員とご家族で密に情報交換及び連携を図りながら療育に努めて参ります。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約前にサポートブックを配布し、アレルギー情報を記載頂き、情報共有を行っている。現時点でアナフィラキシーショックなどの重篤なアレルギー反応のあったお子様がなかったため、今年度は指示書に基づいた対応はなし。		今後もサポートブックを活用し、アレルギー情報の収集に努め、定期的に職員からアレルギー情報が更新されていないか保護者へ促し、情報共有に努めて参ります。
6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例集は随時行っている。ヒヤリハット発生時、当日もしくは翌日までに記載し、日々のミーティング内で情報共有している。		今後も継続して事例集を行い、小さなヒヤリハットの気づきから大きな事故につなげないよう、職員一同努めて参ります。	